

事業名	重点目標	分野別の目標	5 積極的な身体活動と運動習慣の形成
さいたま市レクリエーション協会支援事業	I 若い世代から、健康づくりを意識した生活スタイルの獲得		6 睡眠と休養の確保、ストレスの解消
	II 地域の環境や社会資源を活用した健康づくり		
事業の目標	区の健康づくりの目標		
さいたま市レクリエーション協会加盟団体の種目を紹介及び体験させることで、スポーツ・レクリエーションの楽しさを伝え、市民のスポーツ・レクリエーションへの取組や種目団体への加入を促すよう支援する。			
事業の対象者	単年度事業・継続事業		
市民(幼児から高齢者まで)	継続事業		
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体			
さいたま市レクリエーション協会、さいたま市レクリエーション協会加盟団体(17団体)、NPO法人埼玉県レクリエーション協会、岩槻文化公園体育館(取組(1)のみ)、大宮体育館(取組(2)のみ)			
取組の内容			
(1)さいたま市レクリエーション協会によるレクリエーションフェスティバル(加盟団体の種目や団体等の紹介及び体験コーナーの設置) ※新型コロナウイルスの影響により中止			
(2)レクリエーション協会加盟団体によるレクリエーションの普及事業/講習会 ※新型コロナウイルスの影響により一部中止			
<p>&lt;さいたま市レクリエーション協会加盟団体&gt; 全17団体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インディアカ協会 ・ソフトバレーボール連盟 ・家庭婦人バレーボール愛好会</li> <li>・親子体操協会 ・サイクリング連盟 ・3B体操同好会 ・ターゲット・バードゴルフ協会</li> <li>・日本民踊連盟 ・レクリエーション指導者協議会 ・フォークダンス連絡協議会</li> <li>・グラウンド・ゴルフ協会 ・ミニテニス連盟 ・ビーチボール協会 ・社交ダンス連盟</li> <li>・ペタンク連盟 ・ディスコン協会 ・ファミリーバドミントン協会</li> </ul>			
(3)広報誌及びレクリエーション協会加盟団体紹介リーフレットの作成(市内体育館等の公共施設へ配置)			
取組の成果			
市内公共施設へ広報物を配置したことにより、幅広い世代の方にスポーツ・レクリエーションを知っていただくことができた。また、初心者及び未経験者向けの普及事業の実施により、今までスポーツ・レクリエーションが身近でなかった方々に今からでも始められることを知っていただくことができ、新規会員の獲得にも繋がった。			
新型コロナウイルス感染症の影響			
多くの人が集まるレクリエーションフェスティバルについて、感染拡大のリスクがあるため中止の判断をした。また、各加盟団体における事業についても、団体判断で中止となった事業が発生している。			
課題	コロナ禍が収束した場合の今後の方向性		
市民が継続してスポーツに取り組むとは限らない。	スポーツが身近でない方々への啓発方法として、レクリエーションフェスティバルや小規模の普及事業は有効な手段であると考え、終息後は事業を再開する。		
	コロナ禍が収束しない場合の今後の方向性		
	感染拡大状況を注視しながら、適切な予防策を講じることにより実施が可能と判断した場合は実施するが、状況的に実施が難しい場合は、中止とする。		

事業名	重点目標	分野別の目標	1 がんの予防と早期発見の推進
がん教育出前講座	I 若い世代から、健康づくりを意識した生活スタイルの獲得		
事業の目標			
若い世代ががんに対する正しい知識や検診の重要性を学ぶことで、がんに対する関心を高め、予防行動や将来のがん検診の受診を促す。			
	区の健康づくりの目標		
事業の対象者			単年度事業・継続事業
市立各学校の児童・生徒、保護者、教員			継続事業
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体			
さいたま赤十字病院、さいたま市立病院、サヴァー さいたまBEC、あけぼの会 あけぼの埼玉			
取組の内容			
<p>以下6校で「がんの仕組みや予防法」、「がん経験者の体験談」などについて講座を実施した。</p> <p>①令和3年6月24日(木) 仲本小学校 参加者:教員、保護者(58名) 講師:さいたま市立病院 医師</p> <p>②令和3年10月27日(水) 和土小学校 参加者:5、6学年児童、教員、保護者(83名) 講師:さいたま赤十字病院 医師</p> <p>③令和3年11月26日(金) 大宮八幡中学校 参加者:全校生徒、教員(440名) 講師:Qava!～さいたまBEC～</p> <p>④令和3年12月16日(木) 八王子中学校 参加者:全校生徒、教員、保護者(約460名) 講師:Qava!～さいたまBEC～</p> <p>⑤令和3年12月21日(火) 指扇中学校 参加者:1、2学年生徒、教員、保護者(300名) 講師:あけぼの会 あけぼの埼玉</p> <p>⑥令和4年1月13日(木) 芝川小学校 参加者:教員(35名) 講師:さいたま市立病院 医師</p>			
			
取組の成果			
オンライン開催を取り入れるなど柔軟に対応することで、年間予定の6校で実施することができた。いずれの講座もアンケート結果から、参加者のがんについての理解が深まったことが伺え、予防や検診に対する意識の高まりが感じられた。また、がん患者への接し方など勉強になったという意見も多く見られた。			
新型コロナウイルス感染症の影響			
新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、一部の講座でオンライン形式により開催した。			
課題	コロナ禍が収束した場合の今後の方向性		
申込を行った学校がどのようなことを伝えてほしいかという希望により合致させるため、講師により伝えられる講座内容を明確化すると共に、出前講座の講師として参画いただける方を広く募っていく必要がある。	集合形式の開催を基本とするが、講師や会場の事情等を踏まえ、場合によってはオンライン形式も併用していく。		
	コロナ禍が収束しない場合の今後の方向性		
	開催時点の感染状況を踏まえ、開催方法を決定し、可能な限り中止することなく開催していく。		

事業名	重点目標	分野別の目標	2 循環器疾患・糖尿病の予防と早期発見・早期治療の推進
スマートウエルネスさいたま	I 若い世代から、健康づくりを意識した生活スタイルの獲得		5 積極的な身体活動と運動習慣の形成
事業の目標	II 地域の環境や社会資源を活用した健康づくり		
生活習慣病や寝たきり予防に向けて、部局を超えた連携により、保健福祉分野だけでなく、都市・交通を始め、様々な行政分野において、「歩く」を基本に、「体を動かす、体を動かしてしまう」まちづくりに取り組む。 また、健康無関心層の多い働き盛り世代の健康づくりを目的に、健康情報の発信や各種セミナーの開催を通じ健康経営を推進する。	区健康づくりの目標		-
事業の対象者	単年度事業・継続事業		
市民	継続事業		
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体			
さいたま健幸ネットワーク加入81企業・団体(R3. 11月末現在)、健康経営埼玉推進協議会			
取組の内容			
<p><b>①メルマガ「スマートウエルネスさいたまNEWS」配信！</b> 令和元年度から、さいたま健幸ネットワーク加入企業の健康経営推進を目的に健康情報のメルマガ配信を開始。令和3年度は、「健康マイレージ」、「働き世代の歯の健康」、「熱中症」、「食育」をテーマにメール配信しました。</p>  <p><b>②健康経営を推進！</b> 埼玉県、保険者等で構成する「健康経営埼玉推進協議会」に参画し、広域で健康経営の普及・啓発を行った。</p>			
取組の成果			
<ul style="list-style-type: none"> <li>さいたま健幸ネットワーク加入企業・団体 79団体(R3. 3月末)⇒81団体(R3. 11月末)</li> <li>さいたま市健康経営企業認定 34企業(R3. 3月末)⇒41企業(R3. 11月末)</li> </ul>			
新型コロナウイルス感染症の影響			
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、健幸セミナーの開催や企業訪問を見送った。			
課題	コロナ禍が収束した場合の今後の方向性		
コロナ禍における市内企業・団体のさいたま健幸ネットワーク加入促進	引き続き、様々な企業・団体と連携しながら事業を継続していく。		
	コロナ禍が収束しない場合の今後の方向性		
	引き続き、WEBセミナーを支援するなど、コロナに対応した形で事業を継続していく。		

事業名	重点目標	分野別の目標	2 循環器疾患・糖尿病の予防と早期発見・早期治療の推進
さいたま市健康マイレージ	I 若い世代から、健康づくりを意識した生活スタイルの獲得		5 積極的な身体活動と運動習慣の形成
事業の目標	II 地域の環境や社会資源を活用した健康づくり		
楽しみながらウォーキングする機会を増やすことで、運動習慣を身に付け、ライフステージに応じて自ら継続的に健康づくりに取り組むことができる意識の醸成を目指します。	区健康づくりの目標		—
事業の対象者	単年度事業・継続事業		
18歳以上の市民、市内事業所在勤者	単年度事業		
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体			
ウエルシア薬局、株式会社ツクイ、スポーツクラブNAS、セントラルスポーツ、大塚製薬株式会社、さいたま観光国際協会、日本ピストンリング株式会社、AGS株式会社、全国健康保険協会埼玉支部、さいたま商工会議所、一般財団法人アールビーズスポーツ財団、株式会社アールビーズ、埼玉県健康長寿課ほか			
取組の内容			
<p>・パ・リーグウォークコラボ(4月～)          令和3年4月1日から、本市の健康づくりを支援する「さいたま市健康マイレージ」と、プロ野球パ・リーグ6球団公式アプリの「パ・リーグウォーク」が連携し、「パ・リーグウォーク」アプリからも「さいたま市健康マイレージ」に参加できるようにした。また、4月1日～30日の期間で、埼玉西武ライオンズのグッズが当たるキャンペーンを実施した。</p> <p>・体組成測定会(7月～)          タニタ体組成計で体重・BMI・筋肉量・筋肉のバランス等を計測することが出来る測定会を実施した。コロナウイルス感染症対策のため、事前予約制とした。</p> <p>・「さいたま市健康マイレージ×オクトーバーラン&amp;ウォーク 歩いて・走って・もらおう！あてよう！秋のフィットネスキャンペーン」の開催(10月1日～10月31日)          アールビーズスポーツ財団及び埼玉県が主催の「全国自治体対抗戦」「県内自治体対抗戦」に参加した。その中で、さいたま市健康マイレージ参加者でオクトーバーラン&amp;ウォークに参加した方にもれなくマイレージポイント付与と、抽選での景品プレゼントキャンペーンを実施した。</p>			
取組の成果			
さいたま市総合振興計画実施計画における評価指標として「令和3年度新規参加者数4,000人」の目標を大きく突破し、令和3年12月6日時点で11,579人の申し込みを受けている。			
新型コロナウイルス感染症の影響			
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、体組成測定会を事前予約制とした。			
課題	コロナ禍が収束した場合の今後の方向性		
<ul style="list-style-type: none"> <li>継続率の向上</li> <li>民間企業とのさらなる協働</li> </ul>	適宜見直しを行いながら継続して実施していく。		
	コロナ禍が収束しない場合の今後の方向性		
	感染状況に応じたイベント実施を検討していく。また、集まらずに参加できるイベントやキャンペーンを検討していく。		

事業名	重点目標	分野別の目標	6 睡眠と休養の確保、ストレスの解消
自殺対策推進事業「図書館キャンペーン」	I 若い世代から、健康づくりを意識した生活スタイルの獲得		
事業の目標	II 地域の環境や社会資源を活用した健康づくり		
自殺対策における普及啓発の取り組みの一環として、図書館でのパネル展示やパンフレット等の設置による情報提供を行うことで、市民に幅広く、自殺の現状やその予防について啓発する。	区健康づくりの目標		
事業の対象者			単年度事業・継続事業
市在住・在勤・在学の方			継続事業
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体			
さいたま市立中央図書館、大宮図書館			
取組の内容			
自殺対策やこころの健康に関連したパネルや図書の展示、パンフレット等の設置。 (1)中央図書館 令和3年9月7日(火)～9月20日(月) (2)大宮図書館 令和4年3月中旬に開催予定 自殺の増加が懸念されている若者に向けた情報発信を強化した内容で実施			
取組の成果			
図書館は、学生や会社員、子育て世代、高齢者など、幅広い世代の市民が利用している。図書館利用者が行き交うスペースにパネルや書籍等を展示することで、普及啓発が進んだと考えられる。			
新型コロナウイルス感染症の影響			
特になし			
課題	コロナ禍が収束した場合の今後の方向性		
令和2年度までの固定した1か所の会場で実施していた。令和3年度は内容にバリエーションを加え、2か所で開催予定。今後もより効果的な事業の実施方法を検討していく必要がある。	開催会場、内容などの検討を行いながら、パネルや図書の展示、パンフレットの設置等を行う。		
	コロナ禍が収束しない場合の今後の方向性		
	パネルのみの展示にする等、感染症対策を講じながら事業を実施する。		

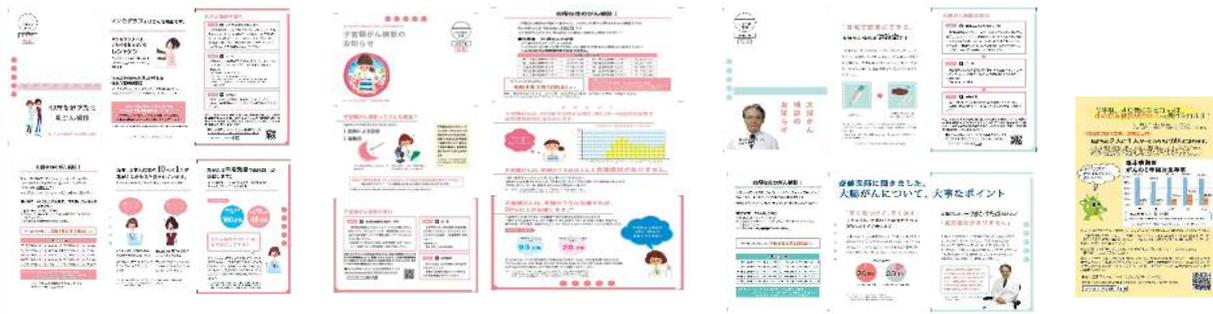


事業名	重点目標	分野別の目標	2 循環器疾患・糖尿病の予防と早期発見・早期治療の推進
糖尿病性腎症重症化予防対策事業	I 若い世代から、健康づくりを意識した生活スタイルの獲得		
事業の目標			
受診勧奨、生活指導、教室等のポピュレーションアプローチにより、対象者の人工透析への移行を防止する。	区の健康づくりの目標		
事業の対象者	単年度事業・継続事業		
さいたま市国保加入者の内、以下に該当する者 (1)受診勧奨:糖尿病の未受診者・受診中断者 (2)生活指導:糖尿病性腎症で通院する患者のうち、重症化するリスクの高い者 (3)フォロー教室:糖尿病性腎症重症化予防対策事業の修了後4年目以降の対象者と、そのうち後期高齢者医療制度への移行者	継続事業		
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体			
(1)受診勧奨・(2)生活指導:埼玉県、埼玉県医師会、埼玉県国民健康保険団体連合会、さいたま市4医師会、さいたま市内132協力医療機関 (3)教室:年金医療課			
取組の内容			
(1)受診勧奨 特定健康診査等の結果より糖尿病の疑いがあるが、医療機関を受診していない未受診者と、診療報酬明細書(レセプト)をもとに、糖尿病に係る医療機関の受診を中断していると思われる受診中断者に対して、文書及び電話による受診勧奨を行う。 (2)生活指導 糖尿病性腎症の病期が第2期、第3期及び第4期とハイリスク者と思われる者で、本人が参加を希望し、かかりつけ医が推薦した者に対して、電話及び面談による生活指導を実施する。 (3)糖尿病性腎症重症化予防対策継続フォロー教室 糖尿病性腎症重症化予防対策事業の修了後4年目以降の対象者と、そのうち後期高齢者医療制度への移行者に対し、フォロー教室を実施する。			
取組の成果			
(1)未受診、受診中断者への受診勧奨:未受診者562人、治療中断者103人に対して文書勧奨を実施し、その後、電話番号が判明している対象者に電話勧奨を実施した。 (2)ハイリスク者への生活指導:1,472人の対象者に通知を送付し、通知をみて事業への参加を希望した対象者のうち、132協力医療機関のかかりつけ医が推薦した147人(昨年度238人)に対し生活指導を実施中。 (3)国民健康保険加入の80人、後期高齢者医療保険加入の25人に案内を送付。参加者3人(国民健康保険2人、後期高齢者医療保険1人)に対し、教室を実施。また日程の調整ができなかった1人(国民健康保険1人)に対し、個別指導を予定。			
新型コロナウイルス感染症の影響			
(2)令和2年度に引き続き、プログラムでは6回となっている保健指導を4回とし、面接も3回から1~2回とした。 (3)教室の開催も新型コロナウイルス感染拡大第5波の影響を考慮し、9月上旬からの受付、10月開催予定を1か月以上遅らせた。			
課題	コロナ禍が収束した場合の今後の方向性		
生活指導の参加者数が減少した。前年度に大幅に増加した反動と、生活指導の申し込み期間が新型コロナウイルス感染拡大第5波と重なったことが要因と推測される。	令和4年度も本事業を引き続き実施する。		
保健指導参加者は高齢者が多く、生活習慣改善のための保健指導が難しい。	コロナ禍が収束しない場合の今後の方向性		
糖尿病性腎症発症前の若い世代からの生活改善が必要であり、健診や特定保健指導につなげていく必要がある。また、糖尿病や合併症に対する知識の普及・啓発が必要である。 糖尿病性腎症重症化予防継続フォロー教室は、参加率が5%程度と低い。より目を引く案内の作成など、参加率を上げる試みを行う必要がある。	令和4年度も引き続き、事業のスケジュールや実施方法等について、関係機関と調整しながら実施する。 令和4年度も新型コロナウイルス感染症の状況を確認しながら、事業を実施していく。		

事業名	重点目標	分野別の目標	2 循環器疾患・糖尿病の予防と早期発見・早期治療の推進
高血圧性疾患重症化予防対策事業	I 若い世代から、健康づくりを意識した生活スタイルの獲得		
事業の目標			
高血圧症や脂質異常症が重症化するリスクの高い者が、医療に結びつくとともに、保健指導を受けることにより、脳卒中、心臓病などの循環器疾患による死亡や要介護を予防し健康寿命の延伸を図る。	区の健康づくりの目標		
事業の対象者	単年度事業・継続事業		
さいたま市国保加入者の内、特定健康診査の結果、検査値が次の基準に該当し、高血圧・糖尿病・脂質異常の治療をしていない者 (1)受診勧奨:Ⅱ度高血圧(収縮期血圧160~179mmHgまたは拡張期血圧100~109mmHg)Ⅲ度高血圧(収縮期血圧180mmHg以上または拡張期血圧110mmHg以上)上記高血圧かつ①脂質異常(LDL140mg/dl以上)②尿たんぱく(1+)以上③HbA1c6.5%以上④喫煙 (2)保健指導:Ⅱ度・Ⅲ度高血圧症かつリスク(脳血管疾患・心疾患の既往等)のある者	継続事業		
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体			
さいたま市4医師会、さいたま市内307協力医療機関			
取組の内容			
(1)受診勧奨 対象者へ通知文書を送付後、電話勧奨を行う。電話勧奨では、受診勧奨及び必要に応じて相談を行うとともに、未受診の理由及び今後の受診行動について確認する。 (2)保健指導 対象者へ通知文書を送付後、電話にて、受診のための相談及び援助を行う。その後、指導から約2か月間の受診確認を行い、未受診者に対して、電話にて訪問指導後の生活改善状況の確認及び相談等を実施する。			
取組の成果			
(1)受診勧奨は対象者503人に対し文書の勧奨を行い、そのうち298人に電話での勧奨を実施した。 (2)保健指導は対象者212人に対し文書と電話による参加勧奨を行い、23人に訪問指導を実施した。			
新型コロナウイルス感染症の影響			
受診勧奨者から、「クリニックが混雑しており、コロナ感染が恐ろしい」といった未受診理由の回答が1件あった。また、保健指導拒否理由も「コロナのため」が2件あった。			
課題	コロナ禍が収束した場合の今後の方向性		
「自覚症状がない、特に気にしていない」等の未受診理由で受診されていない方が60歳以上に多くみられ、疾患の理解や受診の必要性の認識の低さが問題といえる。 40代50代の未受診者も20%程度いるため、若い世代からの高血圧の知識の普及・啓発が重要である。	令和4年度も本事業を引き続き実施する。		
	コロナ禍が収束しない場合の今後の方向性		
	令和4年度も引き続き、事業のスケジュールや実施方法等について、関係機関と調整しながら、コロナの感染拡大状況を注視しつつ事業を実施する。		

事業名	重点目標	5 積極的な身体活動と運動習慣の形成
シルバーポイント(長寿応援ポイント)事業	Ⅱ 地域の環境や社会資源を活用した健康づくり	分野別の目標
事業の目標		
登録者数40,000人		
事業の対象者		単年度事業・継続事業
さいたま市内に住所を有する65歳以上の方		継続事業
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体		
なし		
取組の内容		
<p>登録者数40,000人を達成するために以下のPRを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護被保険者証、後期高齢者医療保険者証の発送時にチラシの同封</li> <li>・自治会掲示板回覧板の活用など</li> </ul> 		
取組の成果		
令和3年11月30日時点での登録者数38,743人		
新型コロナウイルス感染症の影響		
これから活動しようとする人や既に活動している人に影響を与えています。		
課題	コロナ禍が収束した場合の今後の方向性	
事業開始当初は地域団体へのPRを行いながら登録者数を増やしてきましたが、現在は登録者数の伸び率が低い。	多くの高齢者に参加いただけるよう、各種イベント会場において、事業のPRを実施していく。	
	コロナ禍が収束しない場合の今後の方向性	
	事業内容を検討する必要がある。	

事業名	重点目標	2 循環器疾患・糖尿病の予防と早期発見・早期治療の推進
ますます元気教室	Ⅱ 地域の環境や社会資源を活用した健康づくり	3 生涯を通じた歯と口腔の健康の維持・向上 4 1日3食バランスのとれた食生活の推進 5 積極的な身体活動と運動習慣の形成
事業の目標		分野別の目標
高齢者が自立した生活機能を維持し、できる限り要介護状態とならないように、各種体操や簡単な運動・栄養改善・口腔ケア、認知症予防等の講習を行い、高齢期の生活全般にわたる必要な知識を習得するとともに、いきいき百歳体操等を行う通いの場における自主グループ化を目指します。また、この活動を継続することで、社会参加や地域づくりにつながるよう支援します。		
事業の対象者		単年度事業・継続事業
市内在住の65歳以上で教室に関心のある方		継続事業
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体		
教室運営委託事業者、地域包括支援センター(シニアサポートセンター)、各区高齢介護課、各公民館、コミュニティセンター、老人福祉センター、自治会館、学校、介護老人保健施設等		
取組の内容		
市内59公民館、自治会館、学校、介護老人保健施設などを会場とし、介護予防に効果のある、おもりを使った筋力トレーニング「いきいき百歳体操」の方法を学ぶとともに、ロコモ予防、フレイル予防、認知症予防など幅広く、介護予防の知識を学ぶ教室を開催しています。また、教室終了後は、「いきいき百歳体操」を高齢者が身近な場所で自ら継続して行う自主グループ活動を推進しています。		
<p>いきいき百歳体操において手首に巻いて使用するおも</p> 	<p>教室で、おもりを巻いていきいき百歳体操に取り組む参加者</p> 	
取組の成果		
アンケートでは満足度が高く、いきいき百歳体操が役立つとの回答が多いことから、好評をいただいている教室と考えています。教室終了後も運動継続したいと回答する者も多く、通いの場への参加・立上げへとつながり、介護予防・運動習慣の形成に寄与する事業と考えます。		
新型コロナウイルス感染症の影響		
開催見合わせをした時期もありましたが、人数制限、換気、参加者同士の交流会の中止等のプログラム変更等、感染予防策を実施して開催しています。		
課題	コロナ禍が収束した場合の今後の方向性	
地域の状況により、定員に満たない教室もあること、全体として、参加者が減少傾向にあることが課題と考えています。	教室の定員制限の緩和、及び教室終了後も地域で自主的に介護予防に取り組むことができるよう、通いの場への参加を積極的に支援していきます。	
	コロナ禍が収束しない場合の今後の方向性	
	高齢者の身体活動量減少を防止する観点から、感染対策に留意しつつ、本教室等の介護予防教室を開催するとともに、体操の動画等を活用した取組を推進していきます。	

事業名	重点目標	分野別の目標	1 がんの予防と早期発見の推進
がん検診未受診者受診勧奨	I 若い世代から、健康づくりを意識した生活スタイルの獲得		
事業の目標			
受診勧奨により、がんについての知識の普及啓発および、がん検診の受診率向上を図る。			
			区の健康づくりの目標
事業の対象者		単年度事業・継続事業	
①乳がん検診:41～60歳の女性の内、過去不定期的に受診している方。また、国民健康保険加入者で過去3年間乳がん検診の受診歴がない方。 ②子宮頸がん検診:21～39歳の女性の内、過去不定期的に受診している方。 ③大腸がん検診:41～60歳で、過去不定期的に受診している方。 ④40歳の方で、胃・肺・大腸・乳がん検診のいずれも受診歴が無い方。 ※年齢はいずれも令和4年3月31日時点		継続事業	
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体			
国立がん研究センター			
取組の内容			
○令和3年度がん検診において、抽出日時時点で未受診者に対し、対象者別受診勧奨はがきを9月末に発送。 (①～③は国立がん研究センターの提供資材を活用して作成)			
			
①乳がん検診	②子宮がん検診	③大腸がん検診	④40歳(初年度無料)
取組の成果			
はがき送付後、がん検診について問い合わせ件数が増えたため受診のきっかけの一助となったと考える。 成果については検診実施期間(令和4年3月13日)終了後、令和4年度中に調査予定。			
新型コロナウイルス感染症の影響			
令和2年度は受診勧奨はがきの送付を中止した。			
課題	コロナ禍が収束した場合の今後の方向性		
新型コロナウイルス感染症の影響により受診控えが懸念されるため、定期検診の重要性についても情報発信していく必要がある。	継続して受診勧奨を行う		
	コロナ禍が収束しない場合の今後の方向性		
	継続して受診勧奨を行う		

事業名	重点目標	1 がんの予防と早期発見の推進
がん検診受診率向上対策普及啓発事業	I 若い世代から、健康づくりを意識した生活スタイルの獲得	分野別の目標
事業の目標		
がんについての知識やがん検診に関する普及啓発活動を行い、がんに関する意識を高め、受診率向上を図る。		
区健康づくりの目標		
事業の対象者		単年度事業・継続事業
市民		継続事業
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体		
①について、中央図書館と連携		
取組の内容		
①中央図書館にてがんのパネル展示 (10月1日～10月17日)		
②さいたま市Twitterに掲載 4月・10月・11月		
③催事情報システムで放映(11月)		
		
④市報さいたまに掲載(5・7・8・10・11月)		
取組の成果		
例年実施している、図書館パネル展示や市報さいたまでの啓発に加え、今年度より市のTwitterや催事情報システムでの啓発を実施した。新たな方法で啓発を実施したことで、従来からの対象者以外にも情報を発信できた。		
新型コロナウイルス感染症の影響		
令和2年度は図書館パネル展示を中止した。		
課題	コロナ禍が収束した場合の今後の方向性	
今年度、インターネット市民意識調査でがん検診について調査を実施した。結果を参考に、検診未受診者に届く情報発信の方法を検討していく必要がある。	継続して情報を発信していく	
	コロナ禍が収束しない場合の今後の方向性	
	継続して情報を発信していく	

事業名	重点目標	3 生涯を通じた歯と口腔の健康の維持・向上
8020歯の健康教室	I 若い世代から、健康づくりを意識した生活スタイルの獲得	分野別の目標
事業の目標		
・正しい歯のみがき方を身に付けさせる ・歯・口の健康に関する意識の啓発を図る		
	区健康づくりの目標	
事業の対象者	単年度事業・継続事業	
市立全小学校の第1・2・3学年の児童と保護者	単年度事業	
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体		
さいたま市歯科医師会、埼玉県歯科衛生士会		
取組の内容		
【歯科衛生士による児童への歯みがき指導】 ・講話は例年どおり実施し、歯みがきの実習のみ中止した。  【歯科医師による保護者への講話】 ・例年学校保健委員会で歯科医師の講話を実施していたが、感染拡大防止のため、学校保健委員会を中止した学校については対象を教職員に変更し、教職員の研修の一環として歯科医師の講話を実施した。		
取組の成果		
・状況に応じてその都度歯科医師会や歯科衛生士会と連絡調整し、柔軟に対応できた。 ・歯ブラシが持参できた学校は、その場で毛束の大きさや毛先の開き具合、歯ブラシの持ち方などが直接確認できた。		
新型コロナウイルス感染症の影響		
感染拡大防止の観点から、歯みがき実習のみを中止した。		
課題	コロナ禍が収束した場合の今後の方向性	
・給食後の歯みがきの実施について市内でバラツキがあり、8020歯の健康教室で歯ブラシを持参する学校、持参しない学校とに分かれた。 ・歯みがきに対する考え方が児童数の規模別や地域によりで差があることから、何らかの対応が必要と考える。 ・1校から歯科衛生士の指導をオンライン(校内放送で中継)で実施したいという希望があり実施したが、指導者からは「直接児童の反応が確認できず難しい」とのコメントがあった。	コロナ発生前の事業形態に戻して実施する。	
	コロナ禍が収束しない場合の今後の方向性	
	歯みがき実習を抜いた内容で実施する。	

事業名	重点目標	分野別の目標	3 生涯を通じた歯と口腔の健康の維持・向上
公民館介護予防事業	Ⅱ 地域の環境や社会資源を活用した健康づくり		4 1日3食バランスのとれた食生活の推進
			5 積極的な身体活動と運動習慣の形成
			6 睡眠と休養の確保、ストレスの解消
事業の目標			
公民館において、本市の地域的課題の一つである高齢者支援に対応する事業を行い、もって市民の教養の向上、健康の増進に寄与する。	区健康づくりの目標		
事業の対象者	単年度事業・継続事業		
65歳以上の方	継続事業		
事業を展開する上で協働した課所、機関、団体			
各区高齢介護課、いきいき長寿推進課 等			
取組の内容			
「介護予防普及啓発事業」に関する教室を、区高齢介護課、いきいき長寿推進課及び各公民館による主催並びに生涯学習総合センターの協力により開催します。			
1 生きがい健康づくり教室 介護保険制度、防犯、防災、健康などさまざまなテーマを、公民館で従来実施してきた介護予防教室の形式(講座、ワークショップ、体験学習、世代間交流など)で学び、高齢者の生きがいづくり、健康づくりを目的とした教室を実施しています。			
2 ますます元気教室 各種体操や簡単な運動・栄養改善・口腔ケア、認知症予防等、高齢期の生活全般にわたる必要な知識を複合的なテーマで学びます。自主グループ化を目指し、介護予防活動を継続できるよう支援することで、高齢者が自立した生活機能を維持し、要介護状態等になることをできる限り防止することを目的とした教室を実施しています。			
取組の成果			
令和2年度実績 生きがい健康づくり教室 参加者数(延べ人数) 16,217人 ますます元気教室 参加者数(延べ人数) 2,606人			
新型コロナウイルス感染症の影響			
・ますます元気教室の1コース目の一部を中止。(基本は全3コース) ・その他、中止・延期とした講座(教室)あり。 ・定員を制限して教室を実施している。			
課題	コロナ禍が収束した場合の今後の方向性		
新たな参加者の発掘、事業周知 (リピーターが増えているため)	講座内容の工夫、見直しやPR方法の工夫を行い、参加者の安全に配慮しながら事業を展開していく。		
	コロナ禍が収束しない場合の今後の方向性 定員を制限したうえで、講座内容の工夫、見直しやPR方法の工夫を行い、参加者の安全に配慮しながら事業を展開していく。また、動画等による事業の実施も併せて行っていく。		